

14 河井弥八記念館の紹介

筆 者 大村 敏八

平成 24 年 4 月に、旧河井邸跡地(南郷地域生涯学習センターの西側)に設立された、「河井弥八記念館」について、次の 6 項目について紹介します。

- ①、河井弥八記念館について
- ②、河井弥八氏について
- ③、父 河井重蔵氏について
- ④、講演会の開催(二つの研究会)
- ⑤、皇室。皇族よりの下賜品
- ⑥、弥八庵について

①、河井弥八記念館について

「河井弥八記念館」は、郷土の誇りである「河井弥八」「河井重蔵」を、末永く南郷地区民で顕彰するために設立した。

河井家は、平成 12 年地元民に有効利用されることを願って、土地、建物、所蔵品を掛川市に寄贈し、その趣旨を生かして、主屋の解体跡地に、区民が集える場所として、平成 24 年 3 月 30 日に「南郷地域生涯学習センター」が建設された。学習センター建設と並行して、敷地内の蔵を利用した、記念館設立の動きが起こり、市の協力を得て内部改装を経たのち、平成 24 年 6 月に「河井弥八記念館」が開館した。

展示品の大部分は、河井家が掛川市に寄贈したもの(4 万点余)を借用しての展示であるが、河井家やその親戚筋が所有していたもの、地域住民の所有している河井弥八の扁額や掛軸なども協力を得て展示させて頂いている。

記念館の運営は、運営委員会、地域のボランティアの協力を得て行われている。

開館日は、土曜日・日曜日(コロナ感染が収束するまでは、日曜日のみ) 10:00-15:00



〈記念館入口〉



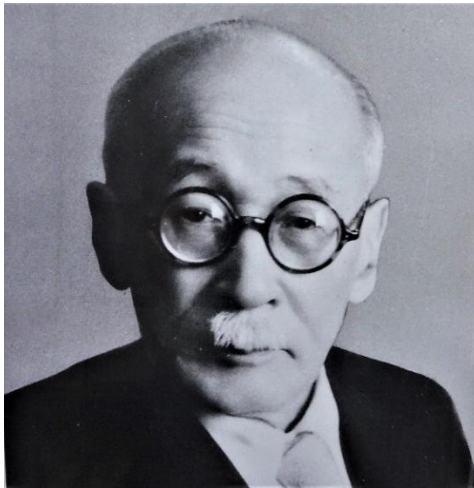
〈三階展示場〉

②、河井弥八氏について

河井弥八氏は、明治 10 年(1877)河井重蔵・ふきの長男として上張村に生まれ昭和 35 年(1960) (82 歳)で逝去された。

弥八氏は、帝大(現東大)卒業後、文部省・宮内省・貴族院・参議院・大日本報徳社・文化財保護委員長等を歴任した。

各時代の主な事を列記すると



〈河井 弥八〉

◆貴族院書記官・書記官長の時代

- ・明治 37 年大学を卒業し、最初は文部省に入省し、明治 40 年には佐賀県事務官に任官するも、同年貴族院書記官となる。
- ・大正 8 年柳田国男の後を継いで、書記官長を 7 年間務めた。
- ・徳川家達貴族院議長(徳川宗家第 16 代当主)とは、貴族院書記官・書記官長時代を含め 19 年間の関わりを持つ。能力を買われて徳川家達の信頼も厚く、退官後も家達とは長く交誼を持つ。



〈儀式用の正装で〉

◆宮内省(天皇側近)の時代

- ・大正 15 年に東宮職御用掛、内大臣秘書官長を任命される。
- ・昭和 2 年には、侍従次長兼皇后太夫となり、天皇の側近として昭和 7 年まで重責を務めた。
- ・河井弥八が取り組んだ主な内容は「大正天皇の葬儀」、「昭和天皇の皇位継承」、「女官制度の改革」、「皇女の養育」、「天皇のお田植え」等が上げられる。
- ・自ら稲作栽培した新穀を「新嘗祭」で使用するよう弥八が昭和天皇にお田植えをお勧めし実現した。…天皇のお田植えは、今も引き継がれている。

◆貴族院議員の時代

- ・昭和 11 年帝室会計審査局長官を最後に、官界(皇室関係)を去る。
- ・昭和 13 年貴族院議員(勅選議員)に推薦のようになった。勅選議員は終身議員として約束されていた。
- ・貴族院議員時代に、食料の自給、食糧増産(甘藷や麦作)に関わりを持ち、その運動を推進していった。…紙しばい「サツマイモのやはちさん」を作成済。

…(HP「河井弥八記念館」参照)

◆参議院議員の時代

- ・敗戦後は貴族院が廃止され、新たに参議院が設立された。
- ・昭和 22 年、第一回参議院議員選挙に立候補し当選。第二回選挙も当選。
- ・昭和 28 年、緑風会と他の会派の推薦で、参議院議長となる。
- ・昭和 31 年、第二回参議院議員選挙で、惜しくも落選。
- ・議員として終始一貫、食糧問題、治水砂防・林業問題に取り組んだ。

◆大日本報徳社副社長 0 社長の時代

- ・昭和 13 年、一木喜徳郎社長(宮内大臣)から請われて副社長になった。
- ・昭和 20 年、一木社長の逝去に伴い、第 5 代大日本報徳社の社長になった。
- ・河井弥八は、報徳社としても国の政策と相まって食糧増産活動を推進した。
- ・報徳人育成のため、定期的に二宮尊徳の思想、社会情勢、食糧増産問題など取り上げた講習会。研修会を行った。
- ・昭和 21 年 3 月 GHQ インボーデン少佐の訪問に対し対応。(大日本報徳社の名前は変える必要はないと言われた)
- ・河井弥八は、昭和 35 年に逝去されるまで社長を務めた。

◆晩年は文化財保護委員長

- ・昭和 25 年(1950)、文化財保護についての総合的な法律が制定。
- ・昭和 31 年 初代委員長高橋誠一郎の後を受けて、二代目として河井弥八が文化財保護委員長に就任した。
- ・在職中の主な重要文化財の指定。 …美術品国宝 2 件 重文建造物国宝他 3 件 重要文化財建造物の指定 16 件

◆『勲一等旭日桐花大綬章』授与証書 …展示中



昭和天皇(裕仁)直筆署名の証書

- ・昭和 35 年 7 月 21 日 河井弥八死去に伴い授与されたもの。
- ・日本国憲法施行後は、戦没者叙勲と外国人受賞者を除き 62 人が受賞されている。

③、父 河井重蔵氏について

河井弥八氏の父、河井重蔵氏は、安政元年(1854)上張村に生まれ、大正 14 年(1925) (71 歳)で逝去された。 県会議員(3 回)、衆議院議員(3 回)に当選し、地方並びに国政に関与した。河井重蔵は、村や地方の発展には並々ならぬ努力を惜しまなかった。

その幾つかを挙げると



〈河井 重蔵〉

◆板沢山御料林の払下げに努力する。

明治 5 年、板沢山御料林(現在の財産区管理地)の払下げを、当時地租改正事務局総裁の大久保利通に請願した。以後度々申請したが、許可が下りるまでに 51 年間の歳月を要した。



〈掛川銀行創設〉

◆掛川銀行創設に加わる。

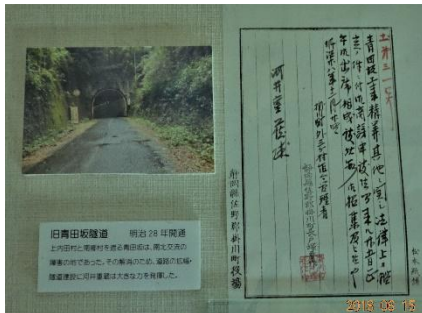
明治政府の殖産興業政策を担うものとして、岡田良一郎を中心に地方の資産家が出資して、明治 13 年に資本金 30 万円の掛川銀行を創設した。河井重蔵も賛同者の一人として 5,000 円を出資して、これに加わった。主として茶の振興のための融資、為替、輸出の便を図ることを業務とし、地域振興に寄与した。明治 26 年には頭取に就き、業務のいっそうの拡大に努力した。



〈東海道線誘致〉

◆東海道線街道筋誘致を請願し、実現を果たす。

藤枝・見付間の東海道線敷設計画は、海岸線を通るルートに決していた。街道筋が寂れることを危惧した山崎千二郎、河井重蔵達は反対運動を起こし、自ら乗降客・産物輸送等の予測を実施踏査した。既に街道筋には、警察署・郡役所等の諸施設が置かれていて街道筋敷設の方が国益に叶うことを、金原明善たちも加わって、各街道筋の有力者や住民の賛同を得て請願した。 政府も再調査した結果、最終的に街道筋敷設を決定した。 この区間の完成によって、明治 22 年東海道線は全線開通した。



〈青田坂隧道〉

◆青田坂改修、隧道建設

青田坂はそれまでは、登りきるまでに、三嘆したという急峻な地であった。東海道線開通後、各地の物流の需要が高まって来た。掛川と南部の交通の障害となっていた青田坂の改修の必要性を感じ、掛川町の山崎千二郎、上張村の河井重蔵、上内田村の角皆七郎平らが中心になって、道路の拡幅、隧道建設を働きかけた。隧道は明治 28 年開通し、現在も旧青田坂隧道として使用されている。



村立南郷尋常小学校 明治 33 年上張に建設
西岸澤村から分離した南郷村(杉谷・上張)は、
小学校建設は急務であった。河井重蔵は、その
中心として努力した。

◆南郷尋常小学校を建設する。

各村の何度かの合併・離反ののち、最後には上張と杉谷の二村だけになった。この当時南郷村には小学校はなく、学校建設は急務の事業だった。河井重蔵を初め村長が中心となってその先頭に立った。戸数も少なく財政力の乏しい村であったが、何とか経費を捻出し、労力は村民総出の協力で建設を進めた。その結果、明治 33 年南郷村立尋常小学校は完成した。

〈南郷尋常小学校〉

◆政治家として

県政・国政に関わる中、県知事の横暴を糾弾し、県政のやり方について「静岡県秕政匡正の議に付請願」を衆参議長に提出するなど、不正を嫌った。

また鉍毒問題に関心を持ち、足尾鉍毒事件で天皇に直訴した田中正造と親交を持つ。現在浜松市佐久間の久根鉍山の鉍毒事件では、住民と共に鉍業廃止に取り組んだ。このことを通して田中正造とはより親密な関係を持った。田中は重蔵の国政選挙に、わざわざ駆けつけ応援演説をしている。

④、講演会の開催(二つの研究会)

河井家文書研究会(注 1)の研究成果を地元還元する場として、地元河井弥八生家跡地に建つ南郷地域生涯学習センターで、平成 24 年より毎年 3 月頃開催されている。

講演会は地元南郷区長会(現在は南郷まちづくり協議会)と河井家文書研究会が主催して行われ、平成 27 年からは、河井重蔵 C 弥八研究会(注 2)も共催の形で加わり、講演も行い研究成果を披露している。

平成 24 年から継続して 8 回開催(内容は「河井弥八記念館」のホームページ参照)されているが、令和 2 年(9 回目)～令和 4 年(11 回目)は、『コロナ感染』予防の為中止とした。

河井弥八記念館第 12 回講演会は、令和 5 年 3 月 11 日(土)14:00～予定しています。

(注 1)河井家文書研究会

- ・代表 小林和幸 青山学院大学教授を中心にした研究会グループ(R2 年)
- ・河井弥八日記を通しての研究成果を地元掛川に還元(講演会の開催)
- ・昭和 20 年～35 年の翻刻に取り組み『河井弥八日記戦後編』全 5 巻を 5 年計画で刊行(第 1 巻 令和 2 年 12 月発刊)

(注 2)河井重蔵・弥八研究会

- ・代表 森山 優 静岡県立大学教授を中心としたグループ(R2 年)
- ・主として、河井家寄贈目録作成に携わった人達で、目録作りだけに終わらないで、これを利用して自分の専門を生かす研究をしたいという事で結成
- ・研究内容は、県立大学の紀要に発表し、地元にも還元(講演会等)

⑤、皇室・皇族よりの下賜品 …展示中

【皇室よりの下賜品】



〈御紋附銀花瓶 一対〉
天皇皇后両陛下より下賜



〈御紋附蒔絵手箱〉
天皇皇后皇太后三陛下より下賜
(昭和 9 年頃か)



象牙の〈一牙彫 水仙〉

皇后宮より下賜
根の底の部分に「宮務」と書
かれている



〈蝶の舞姫人形〉

昭和天皇の第一子照宮茂子内親王
からの下賜品。「お印」は紅梅印

⑥、弥八庵について

旧河井邸跡地にあった、離れ家の耐震補強工事が、令和3年8月20日に完了しました。新名称を南郷地区民に募集したところ、多くの新名称案が出され、9月19日に『弥八庵』と決定し、10月3日に開所式を行いました。

今後は、南郷地区民の憩いの場、学びの場として活用したい。



【入日付近(東北側より)】



【床の間(南側より)】

1. 経緯

平成20年3月に、旧河井邸を解体する時、「弥八庵」と「お蔵」は、築120年程であり、文化財としての価値があり残すことにした。

旧河井邸跡地に、平成24年3月 南郷地域生涯学習センターを建設した時、「弥八庵」は耐震強度不足で、河井家の備品置場(掛川市で管理)としてのみ利用されていた状況で、このままいけば、地震で倒壊するか、風化していくかの状態でした。

そこで掛川市や地元各団体等の協力を得て、耐震補強工事と一部改修工事を実施する事になり、この度工事が完了し、南郷地区で利用することが出来るようになった。

2. 「弥八庵」について

「弥八庵」は、明治27年に、河井弥八氏の父重蔵氏により建立された建物です。その時の図面が現存しており、土間があり、離れの一軒家でした。

重蔵氏は、この離れ家を主に「客間」として利用していた。

その後、弥八氏が離れ家を議員活動の地元拠点とするため、昭和20年代の初め頃、改修工事が行われ、長廊下・庇・トイレを増設し、土間を撤去し電話を設置した。

弥八氏が使っていた頃は、「新座敷」と呼ばれており、主に書斎として利用していた。

「弥八庵」の主な諸設備は、★鬼瓦(東側:紀元式千五百五拾四年 西側:明治式拾七年) ★床の間の葛壁 ★床の間の地袋(刀の鏝) ★梁(地松) ★軒先(扇垂木で施工) ★床の間の敷板(松・黒檀・桜の本を併せて施工) ★布団部屋の戸(節がそのまま残されている霧島杉) ★床下土台補強(φ18mm 鉄筋が東西、南北方向に5本使用) 等があります。



【旧河井邸解体前 平成 19 年 4 月 8 日撮影】

※本論文は、①冊子「河井弥人の生涯 ～河井弥人と父重蔵を知るために～」
と、②ホームページ「河井弥八記念館」より抜粋して記述した。